様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２６ 日現在

機関番号：３７１２５
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2018～2023
課題番号：１８Ｈ０５８２５・１９Ｋ２１０１７

研究課題名（和文）男性不妊当事者の求める心理的支援の実態－心理的支援体制の構築を目指して－

研究課題名（英文）The Reality of Psychological Support Sought by Male Infertile Patients-Aiming to build a psychological support system--

研究代表者
井口　亜由（Iguchi, Ayu）

聖マリア学院大学・看護学部・講師

研究者番号：１０７５５８８８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、男性不妊当事者が現状としてどのような心理的支援を必要とし、具体的に得ている心理的支援の実態を明らかにすることを目的とした。本研究では、男性不妊専門外来ならびに男性不妊外来を有する病院に勤務をする看護職者を対象とし、インタビューによってその実際をお聞きすることが出来た。研究結果として、男性不妊当事者は言葉でその心理を語ることは少なく、表情や態度で感情を示すことが明らかとなった。その感情は初診・施設での初の精液検査時・手術前・手術後に表出されることが多く、期待や不安のある中で治療を行っている実態が明らかとなった。また、看護職者もどう接すると良いか模索していることも明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
男性不妊当事者の心理に関する国内外の研究を概観すると、男性不妊当事者がどのような心理状態で、どのような心理的支援を得ているのかの実態を把握した研究は多くはない。男性不妊外来の数も全国的に少ないが、昨今の不妊治療を必要とする夫婦の増加と、比例して増加している男性不妊外来受診者への支援を考える上で、日々男性不妊専門外来で当事者に接する看護職者のインタビューを通して男性不妊当事者の様子や看護者の語る心理的支援の実際からその実態を明らかにし、その結果から求められる今後の男性不妊当事者への心理的支援についての示唆が得られたことに本研究の意義はあるといえる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to clarify what kind of psychological support male infertile people currently need and what kind of psychological support they are getting.In this study, nurses working in outpatient clinics specializing in male infertility and hospitals with outpatient clinics for male infertility were targeted.Through the interviews, I was able to hear from the nurses about the psychology and behavior of male infertile people.
As a result of the study, it became clear that male infertile people rarely talk about their psychology in words, but show their emotions through facial expressions and attitudes.These emotions were often expressed at the first outpatient visit and first semen test at the clinic, at the time of daily medical examination, before surgery, and after surgery, and it became clear that treatment was performed with expectations and anxiety.It was also revealed that nurses are also looking for ways to treat infertile people.

研究分野：看護学

キーワード：男性不妊　心理的支援　不妊治療

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

近年、日本では晩婚・晩産化が進み、日本産婦人科学会は平成 27 年に不妊の定義を「生殖年齢の男女が妊娠を希望し、ある一定期間、避妊することなく通常の性交を継続的に行っているにもかかわらず、妊娠の成立をみない場合を不妊という。その一定期間については１年というのが一般的である。 なお、妊娠のために医学的介入が必要な場合は期間を問わない。」と、期間が従来の 2 年から 1 年に見直され、健やか親子 21(第 2 次)の基盤課題 A の取り組みの中にも不妊治療の特定治療支援事業(体外受精･顕微授精等、高度生殖医療への治療支援)が含まれており、2012 年の段階で事業件数は 13 万件を超え(厚生労働省,2012)、現在、その数はさらに増加していると考えられる。1996 年に WHO より報告された不妊カップルの原因を調査した結果では、48%は男性側にも原因があり、厚生労働省子ども・子育て支援推進調査研究事業「我が国における男性不妊に対する検査・治療に関する調査研究」における大規模調査の結果では平成 26 年度の男性不妊外来全新患者数は合計 7253 人と、平成 9 年度に行われた白井班担当の男性不妊調査患者数の 5369 名を大幅に上回るものであったと報告されている。(湯村,2016)

我が国では、不妊外来の中で、男性不妊を専門とする外来の施設数は非常に少ない。そのような状況下にある男性不妊当事者の心理について、海外の研究では、女性と同様に親になりたいと思い(Jane RW Fisher et al,2012)、不妊治療の過程でも同様に男性も苦しみ(Tewes Wischmann, 2013) 、さらに女性パートナーへの申し訳なさ(Lisa Hinton, 2013)や男性でないと感じる(Shafali Talisa Arya, 2016)ことが報告されており、その心理的負荷は大きいことが伺える。男性は、心理士や自助グループ、友人ではなく不妊臨床医からの感情的なサポートを好む(Jane RW Fisher et al,2012)という先行研究もあるが、誰かと話し合いたいが、話せる人物を見つけるのが難しい(Shafali Talisa Arya, 2016)ことや不妊カウンセリングでの対処が必要(Tewes Wischmann, 2013)とする先行研究もある。我が国における男性不妊当事者の心理としては、未だ研究は少ないが男性も不妊治療について語りたい・語る場としてカウンセリングの必要性がある(馬場眞有美,2010)とする不妊治療中の男性の声もあり、男性不妊当事者への心理的負担を軽減するための支援が必要であると考えられる。

しかしながら、男性よりも女性への不妊治療に関する研究や議論が多く(Jane RW Fisher et al,2012 ; Lorraine Culley et al,2013 ; 大野田ら,2017)、男性の心理的負担を軽減する具体的支援についての研究は少ない現状がある。日本における最新の男性不妊に関する文献検討では、現段階での男性不妊に関する研究では男性特有の繊細な感情や特徴的な対処行動の分析が不十分である(石川,2015)とされており、海外の文献や経験談を参考にしながら、日本特有の不妊心理(生殖心理)の研究も大切(金澤,2015)であるため、日本で明らかになっていない男性不妊の現状をより掘り下げて明らかにする必要があると考える。男性不妊当事者の心理と、求められている心理的支援の実態を明らかにすることで、男性不妊当事者への心理的支援の構築を行い、近年増加傾向にある当事者のケアニーズの充足を図ることは急務だと考えられる。

２．研究の目的

男性不妊当事者の心理的支援を担う看護職者の視点から男性不妊当事者の心理の実態とそこで行われている心理的支援の実態を明らかにすることを目的とする。

３．研究の方法

研究方法は質的研究であり、男性不妊専門外来を有する 1～3 ヶ所の研究協力施設に勤務をする看護職としての実務経験が 3 年以上あり、男性不妊専門外来もしくは主に女性を対象とした不妊外来の中で男性不妊も診療されている施設の男性不妊外来において男性不妊当事者と接している、勤務年数が 1 年以上の看護職者 4 名程度を対象に、半構造的面接を実施した。

分析は内容分析法を用い、面接内容から逐語録を作成し、「看護職者の視点からみた男性不妊当事者の外来時の心理」「男性不妊当事者の心理的支援の現状」について語られた内容に着目し、ローデータを抽出した。抽出したローデータの意味が損なわれないように要約のうえコード化し、コードの意味内容から分類、整理、統合して、抽象度を上げ、サブカテゴリーとした。さらに相互の関係性に注意しながら最終的な意味内容を表現するカテゴリーに要約した。コード化、サブカテゴリー化、カテゴリー化を行う際はローデータが示す意味との相違がないか、確認を行った。一連のデータ分析は質的研究の経験のある研究者を含む 5 名の研究者で行い、分析の妥当性と信頼性を確保するように努めた。

本研究は所属組織の倫理審査委員会(承認番号：H30-22)にて承認を得て実施した。

４．研究成果

研究結果として、男性不妊当事者は言葉でその心理を語ることは少なく、表情や態度で感情を示すことが明らかとなった。その感情は初診・施設での初回精液検査時・日々の診察時・手術前・手術後に表出されることが多く、期待や不安のある中で治療を行っている実態が明らかとなった。また、看護職者も男性不妊当事者へどう接すると心理的支援に繋がるか模索していることも

明らかとなった。

本研究は、同意が得られた 3 施設、4 名の看護職者からの聞き取り調査のため、男性不妊当事者への心理的支援の実態についての一般化には偏りが出ている可能性がある。また、男性不妊当事者の心理については、当事者本人の語りではなく看護職者からみた心理であるため、今後は対象者を増やすことや、男性不妊当事者へのインタビューを行う研究実施が今後の課題である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 井口亜由、龍聖子、俵由里子、下木ゆかり、桃井雅子
２．発表標題 男性不妊専門外来勤務の看護職者の視点からみた男性不妊当事者の心理とその支援の実態
３．学会等名 日本助産学会
４．発表年 2021年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	龍　聖子 (Ryu Seiko)		
研究協力者	下木　ゆかり (Shitaki Yukari)		
研究協力者	俵　由里子 (Tawara Yuriko)		
研究協力者	桃井　雅子 (Momoi Masako) (90307124)	聖マリア学院大学・看護学部・教授 (37125)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関